

研修名 保護者支援・子育て支援

平成30年12月7日（金）13:30～16:00

講演 「社会資源の理解」「地域の子育て家庭への支援」  
「保護者支援における面接技法」

講師 桜花学園大学 小嶋 玲子 氏

## 1. 講演要旨

### 1) 社会資源の理解

①地域における社会資源とは？

- ・ 自然環境・建物・施設・文化（祭り・風習・食文化・伝統芸能工芸）・地場産業・人材  
の他に 制度・法律・情報 も社会資源の中に入る。



- ・自園（所）と地域のつながりを考える（グループワーク：どのような社会資源がありますか？）



- ・地域を知ること＝園の成り立ちや周りの環境を知ること

※地域に密着した行事の取り組みの紹介

長岡京市→特産の“竹”を使い運動会で“竹登り”

宇治市→特産の“お茶”の飲み比べや茶葉のてんぷら

### 2) 地域子育て家庭への支援

①『新保育所保育指針』

→社会資源との連携や、入所する子どもや地域の子育て家庭に対して、支援等を行う役割を担うもの

→子どもの育ちを家庭と連携して支援し、地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する と明記されている。



②保育所（園）・こども園の特性を活かした『地域子育て支援拠点事業』を展開

- ・以前の“ガキ大将社会”は地域全体で子育てをしていたが、現在は“個”が中心となり、子育て世代が孤立している場合も多い。

- ・個を地域で支える援助が求められ、個を支える地域を作る支援こそ、保育所（園）・こども園の役割である。

③地域子育て支援の充実のための保育士の役割

- ・親子を支援者や活動場所とつなぐ役割
- ・親子（家庭内）をつなぐ役割
- ・親同士・子ども同士（家族同士）をつなぐ役割
- ・支援者（保育士）同士（関係機関）をつなぐ役割→親子と関係機関
- ・地域の人と人をつなぐ役割



※普段、何気ないやり取りの中で保護者を支援していることを自覚する。

### 3) 保護者支援における面接技法

①関係づくり

- ・アクノレッジメント→グループワークで気持ちをほぐし、関係を近づけていく  
(グループワーク:「カードゲーム」3種類の花のカードを一斉に出し、合うか合わないか)

- ・『傾聴』のポイント

話しをする場所

→静かな場所◎、玄関先×、「お待ちください」×

保護者と保育者の位置関係

→斜め◎、90度◎、高低差がある所×

対応方法

→相手を叱責し、強制や詰問にならないような話し方や言葉を選ぶ

→自ら解決策が見出せるような“問いかけ”が大切

(I message、言葉を言い換える、「なぜ?」「でもね～」は否定用語 等)



- ・成功の責任追及→何が良い結果に繋がったのかを検証する。

※「良い事例」を見つけ話し合うことで次に繋がる。計画の一端にもなる。

《きく》

聞く hear 一般的な聞く

聴く listen 身を入れて聴く

訊く ask 尋ねる

※何を聞いているのか

行動 or 感情?

## 2. 感想

『保護者支援』や『子育て支援』は、保育所（園）やこども園にとって特別なことではなく、日常的に“当たり前”にしていることである。しかし、その“当たり前”のことが、子どもや保護者に対して適切に行われているのか、定期的に検証・見直す必要があると感じた。相談を受ける場合はもちろんのこと、送迎時の何気ない会話（伝達事項など）でも言葉を選び、相手の言いたいことや聞きたいことが引き出せているのか、保育士（保育教諭）間で話し合うことが個々の“気づき”や“スキルアップ”に繋がっていく。そしてそれが、園全体の支援の向上にもなると感じた。

また、それぞれの園の環境や地域性は異なるが、共通していることは、子育て世代にとって、子育ての不安や悩みを共有・共感できる場所は、保育所（園）・こども園であるということだ。保護者の要望が多様化している中、できるだけそれに応えていけるよう、園だけではなく周辺の地域を巻き込んだ取り組みが、いっそう求められていると感じた。そのためには先ず、職員一人ひとりが地域の特性を理解し、地域の一員として子どもや保護者に向き合うことも大切になってくると思う。園が、開かれた『地域の子育て拠点』であるために何ができるか、子どもや保護者の声を素直に聴ける保育者で有りたいと思う。

(記録 第2登りこども園ほ一ふるのぼり 西口 千恵)

